

伝記『藤本敏文』 発刊して

信田光宣、藤平淳一（筑波大学附属聾学校同窓会 同窓会史調査委員会）
編 著：那須英彰、須崎純一

1. 主 旨：「藤本敏文」の伝記を発刊するそもそものきっかけは那須英彰氏による。那須英彰氏は、去年の埼玉県にて開催された全国ろうあ者大会で、藤本敏文氏を題材とした芝居（「白いワイシャツの男」（米内山明宏氏と那須英彰氏共演））で藤本敏文氏の役を務めた。演じるにあたり、精力的に藤本敏文氏に関する調査を行い、情報収集に取り組んだ。具体的には、藤本敏文氏を知るろう者への聞き込み、藤本敏文氏が出版・執筆に関わった「聾啞界」や「日本聴力障害新聞」または写真の収集などであった。

上演が成功裡に終り、藤本敏文氏の魅力を十二分に感じた那須英彰氏は、偉大なる先人の存在を広くろう者に知らしめることに使命を感じ、藤本敏文氏の伝記作成を関係者、同窓会理事等と協議した結果、同窓会主体で出版することを理事会に諮り、了承された。

その後、同窓会内部で出版のためのチームが編成され、本格的な調査が開始された。それと並行して調査体制や内容の方向性などが繰り返し協議された。

2. 本 論：①研究許可（調査、インタビュー、遺族からの許可。）

②藤本敏文氏の活動（功績）をのこしておきたい。

日本聾啞協会設立、全日本聾啞連盟設立等

③生い立ち－エピソード－（藤本氏の波瀾万丈の生涯、家族、持論等。）

藤本敏文の幼年期、少年期、家族関係、光子との出会い、きぬの死、晩年の敏文、お墓

< 年 表 >

年 月 日	年 歳	
明治 26 年 1 月 11 日		大阪府中河内郡英田村水走生まれ(現：東大阪市水走)
明治 32 年 4 月	6 才	大阪府北河内郡枚方町尋常小学校入学
明治 33 年	7 才	脳膜炎にかかり、眼病。
明治 34 年	8 才	耳が段々と聞こえなくなる。
明治 37 年 4 月 1 日	11 才	京都市立盲啞院聾啞尋常科(発音科)入学
明治 38 年 3 月 29 日	12 才	同卒業後、中等科進学にも父の逝去で京都盲啞院を退学 そのあと、兵庫県の丹羽地方の柏原町へ帰って、竹細工の見習いをしながら、家計を助 けたりして中学講義録で独学する。
明治 42 年 2 月 4 日	16 才	松江盲啞学校奉職
大正 3 年 9 月 15 日	21 才	松江盲啞学校を退職したのちに広島盲啞学校に奉職
大正 4 年 2 月	22 才	広島盲啞学校退職
2 月 27 日		東京聾啞学校師範科入学(普通科)
3 月 29 日		東京聾啞学校師範科卒業
3 月 31 日		東京聾啞学校で引き続き、ろう教育を研究(~大正 5 年 3 月 31 日まで)
大正 5 年 4 月 17 日	23 才	私立福岡盲啞学校奉職
大正 7 年 7 月 31 日	25 才	私立福岡盲啞学校退職
8 月 8 日		大阪市立盲啞学校奉職
大正 14 年	32 才	社団法人日本聾啞協会理事(大正 14 年~昭和 17 年 3 月 31 日)
昭和 3 年	35 才	大阪市立聾啞学校の先生方による手話劇団「車座」が設立された。藤本敏文氏はその劇 団の理事。
昭和 17 年	49 才	戦時体制により、「日本聾啞教育会」、「財団法人聾教育振興会」、「全国聾啞学校長会」、 「社団法人日本聾啞協会」が合併し、「財団法人聾啞教育福祉協会」となる。 第一回総会を举行し、理事となり機関誌「聾啞の光」を編集、全国各地を回り公民教育 の講演を行った。
昭和 19 年	51 才	戦時下激化に伴い協会の機能著しく喪失し自然廃会となる。
昭和 21 年	53 才	日本聾啞中央協会(仮)設立を目指し、運動を始める。
昭和 22 年 5 月 24 日	54 才	伊香保温泉(群馬県)で全日本ろうあ連盟結成大会が開かれた。
昭和 23 年 4 月 1 日	55 才	全日本ろうあ連盟第一回大会(初の全国ろうあ者大会)京都で開かれる。 委員長……藤本敏文、副委員長……大家善一郎、三浦 浩ら全役員をろうあ者が占め、 「ろうあ者の、ろうあ者の、ろうあ者のための連盟活動」の第一歩を踏み出した。
昭和 25 年 5 月 10 日	57 才	財団法人全日本聾啞連盟連盟長を勤める。
昭和 27 年 3 月	59 才	ヘレン・ケラー賞受賞 大阪市立聾学校高等部本職を免して非常勤講師となる。
昭和 32 年 11 月	64 才	藍綬褒賞
昭和 39 年	71 才	全日本聾啞連盟連盟長を勇退。そして、全日本聾啞連盟名誉連盟長に就任。
昭和 40 年	72 才	勲四等旭日小綬章
昭和 42 年	74 才	大阪市立聾学校退職(非常講師)
昭和 51 年 3 月 31 日	83 才	老衰のため逝去 享年 83 才